火山噴火予知連絡会統一見解及び部会コメント

平成５年５月２４日
気　　象　　庁

雲仙岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

雲仙岳では，２月２日頃から第10ドームが，また３月17日頃から第11ドームが成長を始めた。昨年12月から少なくなっていた火砕流が３月から増え始め，11月以前と同様日に10回程度発生するようになった。火砕流は主に北東方向へ流下しており，３月９日，４月24日等にはおしが谷を通って水無川まで達する火砕流があり，５月20日から23日にかけては中尾川沿いに2.5～３km程度流下し，南千本木付近に達する火砕流が数回あった。

写真測量及び計器観測等によると，溶岩噴出量は昨年徐々に減少し，昨年末から本年１月にかけて非常に少なくなっていたが，２月に入って増加し，その後日量10～20万m^3程度で続いていると考えられる。３月までの溶岩の総噴出量は１億３千万m^3であった。

溶岩ドーム及びその直下の地震は，第11ドーム出現前の３月中旬に多発し，また５月中旬から再び多発している。地殻変動観測では山頂部の膨張が続いており，３月から４月にかけては山頂部が北西に膨れる局所的な変動があった。また，地磁気の消磁傾向も依然として続いている。

このように，溶岩の噴出，火砕流，地震，地殻変動等の火山活動が依然として活発であり，千本木方面への火砕流も含め，今後も火山活動に厳重な警戒が必要である。

なお，降雨による土石流にも引き続き警戒が必要である。

平成5年5月31日
気　　象　　庁

火山噴火予知連絡会伊豆半島東方沖の海底火山部会コメント

5月26日から始まった伊豆半島東方沖の群発地震活動は，29～30日はやや低下したものの，30日夜から非常に活発になっている。震源は深さ5～8 km程度に集中しており，この間震源域は特に大きくは変化してないが，29日から深さ4 km以浅の小さな地震が少ないながら発生している。

傾斜計及び体積歪計は，今回の地震活動開始の頃から変動を続けている。測量においても，伊東と初島の距離及び川奈地区の辺長観測網で伸びが観測されている。伊東における地下水の観測においても変化が認められる。

これらの状況から考えると，火山性微動は観測されていないが，今回の活動は地下のマグマに関連して発生しているものと思われる。現在までのところ，平成元年7月に比べ震源はやや深いが，噴火の可能性も含めて，今後も厳重に監視していく。

平成5年6月7日
気　　象　　庁

火山噴火予知連絡会伊豆半島東方沖の海底火山部会コメント

5月26日に始まった群発地震活動は，30日から31日にかけて非常に活発であったが，その後低下している。地殻変動についても，6月3日頃まで大きな変化を示していた体積歪計，傾斜計，距離測定結果ともその後は変化が小さくなっている。地下水の観測結果も同様の傾向を示している。

以上のように，地下のマグマに関連して発生したと思われる地震及び地殻変動が沈静化に向かっていると考えられ，また，震源が深く，低周波の地震及び火山性微動が観測されていないことから，今回の活動に伴う噴火の可能性は低いと考えられる。しかし，長期的にはこの地域は地震，火山活動が活発な地域と考えられるので，今後とも注意深く監視を続ける。